

最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

目に見えなくても

横浜市立三ツ境小学校（瀬谷区）

三年 林 夏煌

「やった！なついてくれた！」

犬が私の手のおいをかいで、しっぽをふり始めてくれました。その犬は聴導犬です。

私はサマーチャレンジ小学生ふくしこうざで耳の不自由な人の体の一部となつてはたらく聴導犬について学びました。

聴導犬は、かい主にいろんな動作で音を教えます。たとえば、目ざまし時計が鳴った時、かい主の上ののつたり、口やはなでかい主をおしたりしておこします。もしも火事など、きけんのある時は、まずかい主の服にしがみついた後、ふせのしせいをとります。

聴導犬とさん歩体けんもしました。犬は私のスピードに合わせてゆつくり歩いたり走った

りしてくれました。道を曲がる時は太ももをたたいて音で犬に知らせました。

聴導犬は人になれているので、知らない人でもなつきやすいそうです。聴導犬はほえないようにくんれんされているので、おりこうでがんばりやですが、そのほとんどがすてられた犬や野犬です。人間が大事にしなかった犬たちが、人間のためにはたらいてくれるなんて、人間は少しかつてだなと思いました。

耳の不自由な人が聴導犬なしだと、後ろで自てん車のベルが鳴つても気がつきません。そのままぶつかつてころんでしまった人がいると聞いて、私はショックをうけました。

耳が不自由な事は「見えないしよがい」だそうです。私も今までベルを鳴らせば、みんな聞こえるだろうと思っていました。でも、そういう人ばかりではないということに気がつきました。目に見えないけれど、しよがいや病気をもっている人がいる事に気づきました。目に見えている事だけではんだんしないで、まってみたりゆずってみたりする思いやりの心をわすれずにいこうと思います。